

◆ 東京都知事賞 ◆

「僕にとっての納税の意義」

品川区立豊葉の杜学園9年 馬淵 拓己

僕の両足の親指は、小学校2年生のときに「陥入爪」という疾患にかかり、中学校3年生になった現在も完治していない。初めは近所の皮膚科を3軒回り、そこで大学病院を紹介され、更に現在はその大学病院に紹介された別の大学病院に通っている。

頻繁な通院が続く中、母は通院付き添いのために正社員の仕事を手放してパートタイマーになった。そのことでどれくらい世帯収入が減ったのか、きちんと聞いたことはないが、かなり影響はあったのだと思う。

いつ頃だったか覚えていないが、母が大学病院の先生に「拓己くんの足、高校生になるまでに治るといいですね。」と言われていた。なぜ高校生になるまでなのか不思議に思っていたら、中学生までの医療費は無償だからだと説明された。たしかに今までどの病院でもお金を支払ったことがないのは分かっていたが、品川区の「子どもすこやか医療費助成」によって医療費の自己負担分が税金で支払われていることを僕はそのとき初めて認識した。母に後でその話をしたら、「医療費が無償でなかったとしても当然病院には連れていくけれども、やはり無償というのはありがたい。」と言っていた。そして、例えば僕が東京都以外の場所で病院にかかった場合でも、後から請求することでその分の費用が戻ってくることも分かった。なんて手厚い制度なのだろうと感動すると同時に、自分が税金で支えられていることを自覚した瞬間だった。

2023年4月1日からは、東京都で高校生を対象とした医療費助成制度がスタートした。そして、東京23区内の高校生の医療費は、区独自の助成を上乗せすることで親の所得に関係なく無償となった。大学病院の先生には「高校生になっても無償で通院できるからよかった。でも、それよりもっと早く治すように私たちもがんばるね。」と言われている。僕自身、医療費の問題とは別に、一日でも早く完治することを願っているところだ。

このように僕は税金の恩恵を多大に受けているが、その恩返しをするときに将来くるはずだ。今は買い物をしたときの消費税くらいしか支払っていないが、自分で働くようになったり、他にも自動車や家など大きな買い物をする機会があったら、納税の義務を果たすことになる。そのとき僕は何を考えるのだろうか。「せっかく自分が稼いだお金なのに、税金として支払わなければならないなんて、嫌だ！」と少しくらいは思ってしまうのかもしれない。実

際、脱税に関するニュースをときどき見かけるが、つまりはそう思った末に正しく納税しない大人もいるということだ。

しかし、僕はそんな卑怯な大人にはなりたくない。自分が正しく納税することは、将来の自分にとっては「過去の自分のような誰か」を助けることにつながるからだ。そう考えると、納税する日が訪れるのが少し楽しみにすらなってきた。